



埋文だより

平成20年 2月18日発行

新発見相次ぐ！～北から南から～

張り出しのある竪穴住居群

下ノ原B遺跡(大口市)

大口市しものはらの下ノ原B遺跡いせきでは、竪穴住居たてあなじゆうきよ8軒を含む、古墳時代の集落跡が発見されました。竪穴住居へいめんけいの平面形は、張り出しのある方形で、南九州特有の花弁形に近いものでした。このような形の住居跡は、大隅半島おおすみはんとうで多く見つかっており、大口・伊佐地域では初めての発見となります。

また、指宿市みなみすりがの南摺ヶ浜遺跡では、前号けいさいで掲載した立石土坑墓りっせき どこうぼのほかに、円形周溝墓えんけい しゆうこうぼも確認されました。これは、薩摩半島では初めての発見例となります。

目次

- ・新発見相次ぐ！..... 1
- ・平成19年度 センター発掘調査の成果 2・3
- ・教育県民週間に現地説明会を実施 4
- ・シリーズ埋文豆知識 あまごころ「竪穴住居」 5
- ・熱い討論！「大津保伝説 落とし穴シンポジウム」 6

新たに見つかった円形周溝墓

南摺ヶ浜遺跡(指宿市)

速報!

平成19年度 センター発掘調査の成果

本年度、当センターでは20遺跡の発掘調査を実施しました。これらの中から、11遺跡について主な成果を紹介します。

住居内からガラス玉 ～下ノ原B遺跡～（大口市）



下ノ原B遺跡では、古墳時代の竪穴住居が8軒見つかりました。住居内の埋土からは、直径6mmほどのガラス製の青い小玉が3個見つかりました。また、石で作られた小玉も2個見つかりました。

何を描いたのか...絵画土器 ～南摺ヶ浜遺跡～（指宿市）



表面にヘラを使って絵を描いてある土器が数点見つかりました。

弥生絵画の手法が見られますが、何が描かれているのかはまだ分かっていません。

近世の井戸跡

～川骨遺跡～（薩摩川内市）



川骨遺跡では、弥生時代や古墳時代の土器や溝、柱の穴などが発見されました。また、江戸時代につくられた井戸が発見され、7段に積み上げた石の枠が確認されました。

近世の石垣

～二渡船渡ノ上遺跡～（さつま町）

縄文時代・古墳時代の土器や、幅5mほどの近世の石垣などが発見されました。



なぜ、このような石垣がつけられたのかははっきりしません。

田んぼの下に木列

～中津野遺跡～（南さつま市）



中津野遺跡では、古墳時代の木製農具のほか、新たに杭列や十数本の木を敷いた木道と見られる木列が発見されました。

ベッド状遺構のある住居跡

～堂園遺跡A地点～（南九州市）



弥生時代の住居跡が1軒見つかりました。住居内には床面より1段高くなったベッド状遺構があります。

近日開催!

新発見! かごしまの遺跡2008

上野原縄文の森展示館で、4月中旬から開催する予定です。

縄文時代の「ドーナツ」? 環状石斧が出土

～宮ヶ原遺跡～ (曾於市)

直径約12cm、孔の直径3cm、厚さ約2.7cmの“ドーナツ”のような石器は、環状石斧と呼んでいます。真ん中の孔に棒をさして使用したと考えられています。



弥生時代の土器出土

～西原段遺跡～ (曾於市)

西原段遺跡で発見された弥生時代終末期の土器です。1個体が全形でつぶれた状態で出土しました。



8基の集石を確認

～野方前段遺跡～ (大崎町)

野方前段遺跡では、縄文時代早期後葉の集石が8基検出されています。写真はその内の1基で、直径1mほどの範囲にこぶし大の石を集めてあります。



縄文時代後期の落とし穴

～加治木堀遺跡～ (大崎町)

加治木堀遺跡では、古代の道跡のほかに、縄文時代後期の落とし穴が見つかりました。



落とし穴は、深さが170cm、横幅が180cmあり、円筒形で丁寧に作られています。獲物を獲得する願いが込められているのでしよう。

竪穴住居内に炭化木

～前畑遺跡～ (鹿屋市)

弥生時代中期後半の竪穴住居跡が11軒発見されました。

建物の建築材の可能性のある炭化物が重なって出土しているとして高く注目されています。



教育県民週間に現地説明会を実施

～ 下ノ原B遺跡(大口市)・宮ヶ原遺跡(曾於市大隅町)～



下ノ原B遺跡



宮ヶ原遺跡



地域が育む「かごしまの教育」^{はくく}県民週間に、下ノ原B遺跡(11/10)、宮ヶ原遺跡(11/17)の現地説明会が行われ、合わせて383名の見学者がありました。

下ノ原B遺跡では、発見された古墳時代の竪穴住居跡や、出土したガラス玉などを公開しました。また、アンギン編み^あみや、連穴土坑^{れんけつ どこう}や集石^{ちゅうり}で調理した秋の味覚^{みかく}で、古代生活体験^{こだい せいかつ たい}を楽しみました。



宮ヶ原遺跡では、縄文時代の集石^{せきぞく}や石鏃^{せきざく}などの説明や、表土はぎ^{ひょうど}や測量^{そくりょう}など発掘調査の実際も紹介しました。

また、東九州自動車道建設関連の遺跡^{ひがしきゅうしゅうじどうしゃどうけんせつかんれん}から出土した土器や石器などもあわせて公開しました。

「第20回企画展・殿様の器から庶民の器まで」

上野原縄文の森展示館で、ただ今開催中！～

第20回の企画展^{きかくてん}は、江戸時代^{えど じだい}に鹿児島で焼かれた薩摩焼^{さつま やき}をテーマに開催^{かいさい}しています。発掘調査^{はいくつ ちさ}で出土した、殿様^{とのさま}から庶民^{しょみん}までが使用していた薩摩焼^{さつま やき}を中心に、当時の生活を再現^{さいげん}しています。

1月19日には、「薩摩焼の誕生^{たんじょう}」をテーマに、関一之氏^{せき かずゆき}(鹿児島陶磁器研究会^{とう じ き けん き ぐ かい})と関明恵文化財^{せき あきえ ぶん かがい しゆ}事^じ(県立埋蔵文化財センター^{こうえんかい じっし})による講演会も実施されました。

今回特に、「篤姫^{あつひめ}」コーナーも設置し、篤姫の将軍家輿入^{しょうぐんけ こしいれ}の頃に完成した薩摩焼^{さつま やき}の優品^{ゆうひん}である「金欄手^{きんらんて}」や、鹿児島城下町^{じょうかまち}絵図^{えず}などのパネルも展示しています。3月30日までの開催です。



トク 埋文豆知識⑥

のぞいて「竪穴住居」みよう!



上野原縄文の森の復元集落

うえのはらじょうもん もり
上野原縄文の森では、縄文時代早期（約9500年前）の復元集落（10軒）のほかに、県内各地で発見された住居の中から、代表的な「竪穴住居」6軒を古代家屋群として復元してあります。
今回は、奈良時代頃までは一般的な住居だった「竪穴住居」について紹介します。

竪穴住居って何？

じめん
地面を掘り下げ、底を平らにして床とし、その上に屋根をふいた、半地下式の住居のことです。



竪穴住居をつくっている様子（イメージ）

どんな種類があるの？

床面の形が方形（四角）や円形、だ円形のもの、柱の数や位置が異なるものなどがあり、時代や地域により違いが見られます。

円形 九日田遺跡（霧島市牧園町：縄文時代中期）



九日田遺跡 竪穴住居の内部

ほぼ円形の竪穴に、6つの柱穴を等間隔にあげています。南九州の縄文時代中期の代表的な竪穴住居です。

中央部には、浅く掘り込んだ炉もありました。

石積 ウフタ遺跡（龍郷町：弥生時代前期）

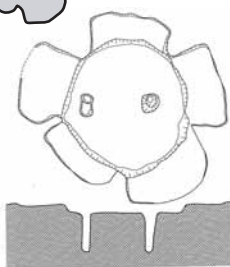


ウフタ遺跡 竪穴住居の内部

サンゴの石積みのかべをもつ竪穴住居で、奄美諸島や沖縄諸島に特徴的に見られます。

中央部に石組みの炉があり、そのまわりには一段高い小部屋、倉庫、出入口があります。

花弁形 上野原遺跡（霧島市国分：弥生時代中期）



上野原遺跡 実測図

1段深く掘られた円形の竪穴のまわりに、花びらのような形（花弁形）の張り出し部分があります。南九州に見られる独特な竪穴住居です。



竪穴住居内の様子（イメージ）

方形 長田遺跡（志布志市有明町：古墳時代前期）

ほぼ正方形の竪穴の内部に柱が4本あり、周囲に浅い溝がめぐっています。

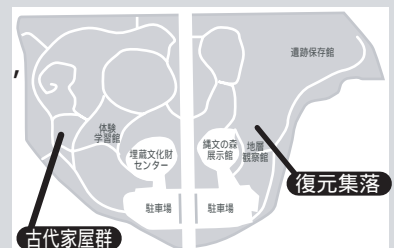
このような竪穴住居は、古墳時代に全国的に見られます。



長田遺跡の復元竪穴住居

竪穴住居の中を見学できます。

縄文の森で、古代体験をしてみませんか？



熱い討論！「大津保畑遺跡^{おおつぼばた}落とし穴シンポジウム^{なかつたね きょうさい}」



シンポジウムの様子

10月27日、中種子町の共催を得て、「種子島こり～な」で、『大津保畑遺跡落とし穴シンポジウム～今、よみがえる3万年前の種子島～』を開催しました。当日は島内を中心に多くの考古学ファンが“日本最古の落とし穴”についての討論を熱心に聞き入っていました。

基調報告では、立切遺跡と大津保畑遺跡について、それぞれの調査担当者が紹介しました。大津保畑遺跡の落とし穴の形には、通常

の筒形とフラスコ形の2種類の形態があり、フラスコ形は旧石器時代では初めての発見との報告がありました。続く討論会では、稲田孝司氏・鈴木敏中氏・杉山眞二氏をパネリストに迎え、当センター職員を交えて、落とし穴の時代の認定や、静岡県初音ヶ原遺跡等の遺跡と比較しながら、狩猟法や獲物の種類及び最新情報や研究の現状、落とし穴の歴史的意義等について闊達な討論が行われました。

シンポジウム当日と翌日には、遺跡の現地説明会も開催し、126名の見学者がありました。小学校低学年を対象とした落とし穴の“紙芝居”や、特別参加した“離島戦隊タネガシマン”の突然の登場も手伝い年齢に関係なく誰でも楽しく学べる現地説明会になりました。

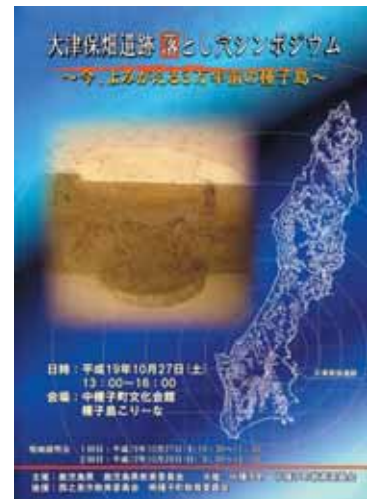
参加者の声

シンポジウムに参加した方の感想を紹介します。



現地説明会の様子

- ・ 3万年前の落とし穴に感動しました。(西之表市)
- ・ 昔から、人は落とし穴を掘って狩りをしていたのだなと改めて感心しました。(中種子町：中学生)
- ・ 紙芝居もおもしろかった。(中種子町：小学生)
- ・ 感動！ 種子島の誇り。(中種子町)
- ・ 話を聞いていて何か震えが来ました。(南種子町)



シンポジウムで使われたパンフレット

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

なお、センターのホームページは、上野原縄文の森(<http://www.jomon-no-mori.jp>)からお入りください。

埋文だより 第46号

発行日 平成20年2月18日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp